

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	・個人的な考えだが、新型コロナウイルスの第6波をもって、日本や一部の国の感染状況が収束に向かうとみている。これから3回目のワクチン接種が進むことになれば、一層感染が抑えられることになるため、2～3か月後には客も安心して旅行や移動を考えるようになる、そのため、今後の景気については楽観視している。
	○	商店街（代表者）	・今後については、暖房費などのマイナス要因も少なくなるため、新型コロナウイルスが収束に向かう兆しがみえれば、来街者が増加し、現状以上の売上が見込めることになる。また、まん延防止等重点措置の措置期間の終了や3回目のワクチン接種の進展を期待できることもプラス要因となる。
	○	商店街（代表者）	・希望的観測ではあるが、3月には新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況が落ち着き、経済的な動きも少しは上向くとみている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が売上に直結する状況にあるため、今後、感染状況が沈静化することで売上が回復することを期待している。
	○	百貨店（売場主任）	・来客数は新型コロナウイルス新規感染者数に左右されるため、今後、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてくことで景気が良くなる。
	○	百貨店（営業販促担当）	・現在の売上減少は感染拡大に伴う一時的な現象とみられる。客にもウィズコロナが定着していることから、感染が収まると回復傾向に向かうことになる。
	○	スーパー（企画担当）	・1月27日時点で34都道府県に適用されたまん延防止等重点措置の影響で2月中旬までは巣籠り消費の傾向が続くとみられる。そのため、新型コロナウイルスの影響が生じた1年目ほどではないにしても、食料品、酒類、日用雑貨などの売上は底堅く伸張することになる。
	○	スーパー（役員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、前年の春のような消費動向となっている。カップ麺、無菌米飯、ティッシュペーパーなど、巣籠り商材が一気に売れ出したことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・受注が好調なことから、供給さえ回復すれば受注残が売上につながり、景気も良くなる。ただ、新型コロナウイルスの感染状況で動向が変わってしまうことが心配される。
	○	その他専門店〔造花〕（店長）	・現在が悪い状況にあることから、今後、感染状況が落ち着けば景気は良くなる。
	○	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況が落ち着くことで、ビジネス、観光の需要が戻ってくるとみている。ただ、恒例の冬のイベントについてオンライン開催への変更が発表されるなど、イベントを縮小したり、取りやめる動きがみられることから、冬季観光にとっては厳しい状況にある。今後の需要回復に向けて、観光関連業界が受入能力を維持できるかも懸念される。
	○	旅行代理店（従業員）	・第6波が収束に向かうことが見込まれることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	通信会社（企画担当）	・前年度から営業利益を減らしてでも、客獲得に向けた経費の予算配分を大きく増やしていることから、今後の新規客の獲得が期待できる。特に現在他社に大きく負けている都市圏の状況が改善されることを期待している。
	○	観光名所（従業員）	・今後については、現在の新型コロナウイルスオミクロン株による第6波も落ち着きをみせ、前向きに活動していこうというステージに入るとみている。各種支援施策による後押しも期待している。
○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今回の新型コロナウイルスオミクロン株による影響が一段落することで、観光のオンシーズンと合わせて輸送量が増加すると期待している。	
○	住宅販売会社（経営者）	・このひと月以内に新型コロナウイルスオミクロン株が収束し、全体の景気が底上げされることを期待している。ただ、新型コロナウイルスオミクロン株に代わる新型コロナウイルス新株が出てくるとなれば景気はますます下向きになると心配している。	

□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスオミクロン株が市中で広がっており、客との会話でもそのことが話の出发点となっている。今後については、新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況がどうなるか分からないため、何とも言えない。
□	百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の動向は予測できないが、しばらくは感染状況に大きな改善はみられず、人々の警戒感も強いままであると見込まれる。街中や商業施設への人出がすぐに回復するとは考え難いため、今後も景気は変わらない。
□	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば景気は上向きになるが、これまで新型コロナウイルスの感染再拡大を繰り返しているため、今後も景気は変わらない。
□	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス第6波の影響で各種イベントの延期や中止が生じている。そのため、今後についても社会行事、学校行事関連の需要が落ち込むとみられ、最終的には前年と余り変わらない売上で終わるとみられる。
□	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染状況に収束がみられないことから、今後も景気は変わらない。
□	乗用車販売店（従業員）	・例年、北海道は春先需要があるため、今後については今以上の売上となる。ただ、新型コロナウイルスによる影響がどの程度生じるかで全てが変わってしまう。
□	乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの影響が収まれば、イベントなどが通常開催できるため、決算に向けての営業活動ができるようになる。決算手当を当てにしている社員も多いことから、前年並みの支給があれば前年と同じような景気となる。
□	乗用車販売店（従業員）	・今後については、遅れていた納車が進むことで年末までの受注残による売上が見込める。ただ、現在、新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増加していることで、これから受注減が生じることも懸念される。
□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・客の動きをみると、新型コロナウイルスオミクロン株に戸惑っている様子もなく、こつこつと日常をこなす日本人らしい行動がうかがえる。そのため、今後の景気が悪くなるような雰囲気はない。
□	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染が続く限り、飲食店の利用は警戒されることになる。これまでの感染状況の推移から感染者が劇的に減らないのであれば、今の状況と変わらないまま推移することになる。
□	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況によって変動するため、今後の景気も変わらない。
□	美容室（経営者）	・1月の売上状況から、今後も売上は新型コロナウイルスの新規感染者数に余り左右されないとみている。ウィズコロナの生活が浸透していくと考えている。
□	美容室（経営者）	・前年末から売上が少し上向いてきていたが、今後については新型コロナウイルスの影響もあり、良くなるとは考え難い。ただ、それほど落ち込むこともないとみている。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・売上は前年比343.5%、前々年比で54.9%となっている。今後の景気は悪くなるような気がしてならない。
▲	百貨店（マネージャー）	・まん延防止等重点措置の解除後は若干のリベンジ消費が見込まれるが、その後は3回目のワクチン接種が進んだり、経口薬が広がるまで、厳しい状況となる。
▲	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響で経済がうまく循環しないとみられるため、今後も景気は変わらないまま推移する。
▲	スーパー（企画担当）	・例年であれば、春に向けて活動的な時期となるが、新型コロナウイルス第6波が拡大し、まん延防止等重点措置が適用されたことから、今後の景気はやや悪くなる。人流抑制に伴う経済へのダメージが心配される。
▲	スーパー（従業員）	・食料品の値上がり、ガソリン価格の高騰などによって、生活防衛意識が高くなっており、今後もこの傾向が続くとみられることから、景気は変わらない。
▲	コンビニ（エリア担当）	・現在の状況がしばらく続くとみられることから、我慢の3か月となる。特に体力のない企業にとってはかなり苦しい状況が見込まれる。ただ、半年後には景気が良くなると期待している。
▲	コンビニ（エリア担当）	・飲食店などの外販先の売上が落ち込むことが懸念される。また、家庭の消費についても伸びが見込めない。

▲	家電量販店（経営者）	・まん延防止等重点措置が適用されてから、来客数、電話本数が激減している。今後についても売上の減少は避けられない。
▲	家電量販店（店員）	・第6波の感染状況によって客足が左右されることになるが、今後の景気はやや悪くなるとみられる。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・今後しばらくは飲食店やレストランの客離れが続くことになる。昼は良くても、夜は相当厳しくなるため、景気はやや悪くなる。当分の間は、行政の支援金頼みになるが、閉店せずに事業を継続していきたい。医療体制が整備されれば、新規感染者数が増えたとしても、飲食店の営業自粛は軽減されると考えているが、新しいタイプのウイルスによる感染が起こると一からの出直しとなる。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・感染状況が収まる気配がまだないため、今後の景気はやや悪くなる。また、感染が収まったとしても次の新型コロナウイルス変異株による拡大が起きることも懸念される。
▲	観光型ホテル（スタッフ）	・新規感染者数がピークアウトすれば、景気も回復し始めるとみているが、時期については不透明である。
▲	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急激な増加に加えて、まん延防止等重点措置の適用もあり、今後の利用者数の減少は避けられない。
▲	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況次第だが、春までは厳しい状況が続くとみられる。
▲	住宅販売会社（経営者）	・今後については、新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況が一段落するとみられるが、米国の金利利上げなどの金融引締め策によって不動産市場に悪影響が生じることが懸念される。
×	商店街（代表者）	・まん延防止等重点措置が適用されたことで、来客数が再び減少し、厳しい状況になるとみている。
×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響によって、今後の景気は悪くなる。
×	商店街（代表者）	・新規感染者数が増え続けており、規制の解除もまだ見通せないことから、今後への不安が増大している。これまで春には回復基調に向かうという期待を胸に頑張ってきた店が多かったが、その思いもくじかれたことで、商売への意欲を失って絶望感の漂う店が多くみられる。
×	衣料品専門店（店長）	・行動制限が出されたことで、営業職の稼働が落ち込むことになり、売上が再び落ち込むことになる。ボリュームゾーンの購買層の消費が盛り返さない限りどうしようもない。
×	スナック（経営者）	・まん延防止等重点措置が適用されるため、今後の景気が良くなることは考え難い。どちらにしても措置期間の2月20日までは休業することになるため、その後のことについては状況をみながら考えていくことになる。
×	観光型ホテル（経営者）	・新規感染者数の増加が続いていることから、今後、より強い措置が適用される可能性もあり、3か月先までの予約がストップしている状態にある。冬の観光シーズンに期待していたが、前年と同じ状況に追い込まれている。人流抑制策により営業が半強制的に止められており、なすすべがない。原材料費も含めて物価が上昇していることもマイナスである。
×	タクシー運転手	・1月中旬までは人出が戻り、タクシーの利用も新型コロナウイルス発生前の状況に戻りつつあったが、今後、新型コロナウイルス新規感染者数が大幅に減少しない限り、まん延防止等重点措置の期間中は人出が減少するばかりとなる。特に夜の人出が大きく減っていることから、タクシーの利用も期待できない状況にある。
×	タクシー運転手	・まん延防止等重点措置の期間は飽くまでも目安であり、今後の延長が十分に考えられる状況にある。また、これまでの経験から、解除後も低空飛行が続くことが見込まれる。
×	タクシー運転手	・年末年始と比べると、最近10日間くらいのタクシー利用は約4割落ちている。これは前年や前々年にもみられなかったほどの減少スピードであり、今後、どのような影響が出てくるのかを注視したい。北海道はまだ冬期間が続くため、まだまだ厳しくなることも懸念される。
×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染力は新型コロナウイルス変異株より強いとみられ、急激に新規感染者数が増加していることで、まん延防止等重点措置が適用されることになれば、タクシーの稼働状況も激減することになる。

	×	観光名所（職員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の流行により低迷からの脱却がみえない状況となっている。今後、新型コロナウイルスオミクロン株が収束したとしても、新たな新型コロナウイルス変異株が発生すれば同じことの繰り返しになる。そのため、ワクチンや飲み薬の充実はさることながら、新型コロナウイルスの変異の傾向や重症者数、病床利用率などにも注視しながら、政府による適切な判断が行われ、いち早く経済が正常化されることを期待している。
	×	美容室（経営者）	・燃料費高騰、物価上昇、新型コロナウイルスオミクロン株の影響など、今後の景気が良くなると思えるような判断材料がない。
	×	美容室（経営者）	・原油高に加えて、新型コロナウイルスの感染状況が影響してくることで、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	食料品製造業（従業員）	・取引先と協力した販売促進計画を検討していることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	家具製造業（経営者）	・新型コロナウイルス対策への経験値が高まっているなか、経済も回さなければという意識が強まっていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（経営者）	・公共工事について、ゼロ国債工事や翌債工事の発注、契約が始まる。実際の工事着工はゴールデンウィーク明けになるが、準備作業などで技術者が動き始めることになる。民間建築工事についても引き合いが増えてくることでマインドが上向くことになる。
	○	金融業（従業員）	・先行きの道内経済についてはコロナ禍の収束状況次第であるが、新型コロナウイルスオミクロン株の重症化リスクが相対的に低いとみられることから、先行きのマインドが大幅に悪化し、消費、投資が極端に控えられることは考え難い。そのため、今後の道内経済はコロナ禍の収束に合わせて経済活動が活発化することになり、やや良くなる。
	○	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・人手不足のせい、来年度の受注条件がやや良くなっているようにみえる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・諸外国の状況から、新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況は早めに落ち着くと考えられるため、今後の経済活動の再開に期待が持てる。
	□	食料品製造業（従業員）	・受注量が変化するような案件が見当たらないため、今後も景気は変わらない。
	□	建設業（役員）	・新型コロナウイルスについて収束が見通せないことから、民間建築案件の受注動向や資材、燃料の価格高騰、品不足などが懸念材料となっている。一方、公共土木工事については、来年度予算成立後の新規受注を期待できることから、業績の下支えとなる。
	□	輸送業（営業担当）	・紙パルプ業界については、原料の古紙調達動き出ししていることでほぼ計画並みの物流に戻りつつある。また、畜産用配合飼料の原料も引き続き好調に推移している。ただし、本州向けの生乳については、引き続き縮小傾向で推移するとみられる。飲料関連も動きが不透明であり、物流量全体で見ると、今一つ好転の材料に乏しい。
	□	輸送業（支店長）	・例年、当社では春先から受注量が上向くことになるが、コロナ禍の影響もあり、先行きが不透明となっている。
	▲	建設業（従業員）	・資材納入の遅れは建設工事費の上昇につながると同時に、労務費の上昇にもつながっている。資材納入の遅れがすぐに改善するとは考え難く、じわじわと費用上昇がみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	通信業（営業担当）	・現状の景況感はやや良い状況が継続しているが、取引先の様子をみると、将来の需要や周囲の企業の経営状況に対して慎重な見方が増えている。また、足元での新型コロナウイルスの感染拡大の影響や半導体不足による納期遅延などのマイナス要因もあることから、この先の景況感はやや悪くなる。
▲	司法書士	・新型コロナウイルスオミクロン株が世界中で感染拡大するなか、日本においても1月中旬から急激に感染が拡大しており、各地でまん延防止等重点措置の適用が相次いでいる。新型コロナウイルスの感染第6波の収束も予測がはっきりとしないことから、今後の経済は落ち込むことになり、景気回復にも遅れが生じることになる。	

	▲	司法書士	・新規感染者数の増加に伴って、出張ができなくなったり、他地域との取引で現地に行くことができなくなることが見込まれるため、今後の業務に遅れが生じることになる。業種にもよるが、テレワークで対応するには限度があるため、こうした不便さ、不自由さが景気の足を引っ張ることになる。
	▲	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・コロナ禍、半導体不足、燃料価格の高騰、資材高騰、搾乳制限など、今後に向けてのマイナス要因が多いことから、景気はやや悪くなる。
	▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・半導体関係の供給不足によって様々な製品の供給が遅れ、納期がずれこんでいることに加えて、年明けから春にかけて値上げが起きていることから、急な発注が増えており、生産遅れが発生している。また、建築関連においても仕事が遅れ気味なことから、忙しくなるのは夏の終わり頃になりそうな気配があり、先が読みづらい状況となっている。
	×	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・今後については、新型コロナウイルスの感染第6波に収束傾向が現れることで、人の動きが活性化し、それとともに売上も上向いてくることになる。
	○	職業安定所（職員）	・当地における新規求人数は前年から11.5%増加しているほか、月間有効求人数も9か月連続で前年を上回っていることから、全体的には回復の兆しがみられる。ただし、産業、業種によって回復の度合いは異なっており、新型コロナウイルスの感染状況によっては、経済活動や消費行動の先行きを見通せない。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	・今後の新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況によっては、間もなく就活に入る3年生の志望業界選択を大きく左右することになる。ただし、新型コロナウイルスによる影響を余り受けていない業界においては、人材確保がうまくいくことが見込まれ、安定感が増すことになる。
	□	人材派遣会社（社員）	・今後も業績拡大に向けた動きは継続するとみられるものの、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大が社内の人員体制に与える影響を心配する企業も目立つようになっている。一方、感染による社員の欠員対応として人材派遣を積極的に活用して、持ち直してきた企業活動の停滞回避を探る企業の動きもみられる。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・今後、医療機関のひっ迫が起こる可能性があり、業界によっては再び人材ニーズが縮小することも懸念される。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・今後については、新型コロナウイルスの感染状況に左右される部分が多い。感染が収まれば景気は上向きとなり、新規感染者数が増えれば景気は悪くなる。また、長く続いている円安を背景とした資材価格や原料価格の高騰が消費や企業活動に与える影響も小さくないとみられる。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、基幹産業の建設、農業を除けば、悪い影響を受ける業界が多いことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数がここに来て大きく増えていることから、今後の景気が上向くとは考え難い。せめて横ばいで推移すれば良いが、現在の状況下ではそれも厳しいとみられる。周辺をみると、業績が改善している企業や業績が2極化している業界などもみられるが、余り業績が良くない業界では景気が上向くような展望を描きにくい状況にあるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響から、雇用調整助成金の相談件数が増加傾向にあるため、今後の景気はやや悪くなる。
	×	—	—